

日本の「知」講座 詳細

2026
7.12
SUNDAY

一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位修得退学。博士(社会学)。主な業績として、高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編『宗教と社会のフロンティア:宗教社会学から見る現代日本』勁草書房、2012年、高橋典史『移民、宗教、故国:近現代ハワイにおける日系宗教の経験』ハーベスト社、2014年、高橋典史・白波瀬達也・星野壮編『現代日本の宗教と多文化共生:移民と地域社会の関係性を探る』明石書店、2018年など。「宗教と社会」学会元会長(2022-24年度)。そのほか、日本宗教学会理事、日本移民学会理事、国際宗教社会学会理事などを歴任。専門は宗教社会学、移民・難民研究。



たかはし のりひと
高橋 典史

東洋大学社会学部 国際社会学科
教授

時間	回	テーマ	申込期間
13:00~14:30	01	哲学・宗教・思想	6月15日(月)~7月11日(土)
コース名	宗教からみる現代の日本社会		
コース概要	日本で暮らす多くの人びとにとって、「宗教」は縁遠い存在と思われがちです。しかし、冠婚葬祭などの人生儀礼、お祭りをはじめとする地域社会における年中行事、観光と深く結びついた神社仏閣、漫画やアニメといったポピュラーカルチャーの中で広がる宗教文化、政治と宗教をめぐる諸問題など、現代の日本社会においても宗教は一定の存在感を持っています。本講義では、宗教社会学の視点から、そうした「宗教と社会」の関わりについて分かりやすく解説します。		

筑波大学第二学群人間学類心理学専攻卒業。早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程修了。博士(日本語教育学)。国際交流基金/日本外交協会日本語教育専門家(モスクワ国立大学、キウ国立大学、バクー国立大学、タシケント東洋学大学派遣)、滋賀大学国際センター准教授を経て現在東洋大学文学部国際文化コミュニケーション学科教授。文学部日本語教員養成プログラムを主管。専門は日本語教員養成、国際協力。主な著作に『「ネイティブ」とよばれる日本語教師—海外で教える母語話者日本語教師の資質を問う』(単著)、『移動する女性たち—海外の日本語教育と国際ボランティアの周辺』(単著)、『「グローバル人材」再考—言語と教育から日本の国際化を考える』(共編共著)等。

時間	回	テーマ	申込期間
15:00~16:30	02	ことば・語学	6月15日(月)~7月11日(土)
コース名	多文化共生のための日本語コミュニケーション —「やさしい日本語」の視点から—		
コース概要	日本では、外国人住民の数が年々増加しており、「多文化共生」のための日本語コミュニケーションの重要性が高まっています。異なる文化に属する人々の関係構築・情報共有をより円滑に進めるためには、日本語母語話者も、日本語学習者も、それぞれ今使っている日本語を、少し工夫してみることが有効です。そのために今回は、「やさしい日本語」に代表される簡略化日本語の構造と使い方や、各自の言語文化の違いを前提とした、日本語の談話の組み立て方等を話題として扱い、さらには一部実践形式で、「やさしい日本語」リライト作業にも取り組みます。		



ひらはた なみ
平畑 奈美

東洋大学文学部国際文化コミュニケーション学科
教授